

## “皮膚”から広がる世界へ

琉球大学大学院皮膚病態制御学（皮膚科）  
宮 城 拓 也（21期生）



同窓会の皆さん初めまして。皮膚病態制御学（皮膚科）2年目の第21期生・宮城拓也と申します。今回、同窓会から編集・講座紹介の機会を頂いたので当医局：皮膚科学教室のご紹介をさせていただきます。

私が所属する皮膚病態制御学講座は主任の上里博教授を中心に日々の診療、研究に励んでおります。なお、医局長である平良清人先生〈第12期生〉が皮膚科学教室を取りまとめています。

皮膚科学教室は上里教授のコンセプトのもと、診療は主に皮膚外科グループ、皮膚内科グループ、研究グループに分かれて当たっており、それぞれの担当グループに応じた疾患を中心に患者さんの診断・治療を行っております。

皮膚外科グループ（安里豊先生〈第13期生〉、眞鳥繁隆先生〈第19期生〉など）を中心に主に基底細胞癌や有棘細胞癌、悪性リンパ腫などの手術・化学療法といった皮膚悪性腫瘍の診療を行っております。その中で他県ではほとんどみられない当科ならではの疾患として「成人Tリンパ細胞白血病」と「頭部血管肉腫」が挙げられます。いずれの疾患も非常に悪性度が高く予後が厳しい疾患として知られています。現在、当科では他科との密な連携のもとでそれらの治療に携わっており、患者様のより良い未来のために頑張っております。

皮膚内科グループ（山本雄一先生〈第9期生〉など）に私は所属しており、「強皮症、皮膚筋炎、SLE」といった膠原病を中心とした自己免疫疾患の診療に力を入れております。皮膚内科グループ

では前述の膠原病に加え、「水疱症」「抗リン脂質抗体症候群」や「血管炎症候群」などの自己免疫疾患を幅広く診療し非常に積極的な治療を行っております。

もちろん、そのような特殊疾患のみならず「帯状疱疹」や「アトピー性皮膚炎」、「熱傷」といった皮膚科領域の一般的な疾患も各グループの専門の枠にとらわれず皮膚科全体で診療にあたっています。このような日常診療における幅の広さが臨床における琉球大学皮膚科学教室の最大の特徴だと思っています。

このような特徴を持つ当科に、今年4月より京都大学医学部皮膚科にて角化症の研究をされていた高橋健造先生が准教授として研究グループのリーダーを担うべく当科に赴任され、今後は大学病院としての責務である研究業務を行う体制が整ってきております。このように当医局は臨床・研究ともに充実し、やりがいのある医局へと邁進しております。

そのような状態にある当医局を含め、現在、当大学病院全体に医師不足が生じてきております。それはいずれ、研究業務のみならず在校生の皆さんへの教育・指導、そして何より日常診療の質にも影響を及ぼす可能性があります。そのような閉塞した状態を回避・打破するためにも大学病院の各医局に所属する卒業生が増えてくれることを切に願っております。

私が愛する母校が悪い状態に陥らず、今後とも活発で世界に通用する琉球大学病院であり続けてほしいという願いをもって僕の医局紹介を終わらせて頂きます。